



私たちの周りでは日々どこかで、道路整備や河川改修などの社会基盤整備が進められている。東播磨と北播磨地域では地域間の連携を深め、交通渋滞の緩和や

地域活性化にもつながる「東播磨道」の延伸工事が最盛期を迎えようとしている。工事に関わっている地元建設会社や事業主体である兵庫県の関係者に、仕事の内容ややりがいのほか、ビッグプロジェクトに携わる思いなどを聞いた。

東播磨道 (加古川市～小野市)

交流促進、活性化に期待



東播磨道は、国道2号加古川バイパス(加古川市)と国道175号(小野市)を結ぶ全長12.1kmの自動車専用道路。このうち南工区5.2kmが2014年に開通。現在は北工区6.9kmの事業が進められている。通行料は無料。

全線開通により東播磨地域と北播磨地域の移動にかかる所要時間が20分以上短縮され、地域間の連携のほか人や物の交流促進が期待される。2次救急を担う北播磨総合医療センター(小野市)、3次救急の県立加古川医療センター(加古川市)はともにランプから近く、救急医療での連携が強化される見通しだ。

山陽自動車道・三木小野インターチェンジと、製造業が集積する播磨臨海部への南北アクセスがよくなり、ひょうご小野産業団地(小野市)への企業進出などによる地域経済の活性化も期待できる。また南工区の開通後、周辺道路でも交通渋滞の緩和が期待され、交通安全の削減が期待されている。

東、北播磨間移動 20分短縮へ

東播磨道は、国道2号加古川バイパス(加古川市)と国道175号(小野市)を結ぶ全長12.1kmの自動車専用道路。このうち南工区5.2kmが2014年に開通。現在は北工区6.9kmの事業が進められている。通行料は無料。

全線開通により東播磨地域と北播磨地域の移動にかかる所要時間が20分以上短縮され、地域間の連携のほか人や物の交流促進が期待される。2次救急を担う北播磨総合医療センター(小野市)、3次救急の県立加古川医療センター(加古川市)はともにランプから近く、救急医療での連携が強化される見通しだ。



(取材協力=兵庫県建設業育成魅力アップ協議会)

兵庫県北播磨県民局加東土木事務所
東播磨南北道路対策室南北道整備課主任

中村 亘氏

宅地の多い加古川市域とは対照的に、三木、小野両市域は田園部が多く、盛土構築の工事が大半を占める。ICT(情報通信技術)を活用して、ICT活用工事では、全国的にも工期短縮などの効果が出ており、今後の整備推進には欠かせない。

「命の道」造りやがい

また、工事を円滑に進めるために仮設計画を重視している。例えば工事車両や重機が現場に進入する通路がうまく設けられなければ工事の遅れにつながることもある。用地買収の進捗もよく、仮設計画の変更も余儀なくされる場合もあるが、自分なりに今後とも工夫していきたい。

道路を造るのは手段であり、目的は地域の活性化や県民の安全・安心の確保。医療施設へのアクセス時間の短縮により、救える生命が出てくることもあり、東播磨道は「命の道」とも言える。そういった目的を果たせるのは行政ならではのやりがいを感じている。

兵庫県北播磨県民局加東土木事務所
東播磨南北道路対策室南北道整備課主査

吉田 拓二氏

工事の推進にあたっては、地元への丁寧な説明や対応に努めている。東播磨道の工事では9カ月間通行止めになる生活道路があり、通学路でもあることから小学生が約400名ほど登下校せざるを得なくなった。慣れない道を通学する上に工事での幅員が狭くなっているため、その区間は、ただ単にガードマ

地元の安全・安心を確保

近年は児童を巻き込む痛ましい事故が多く保護者の不安も高まっているので、より安全・安心を高める対応を取った。民間企業を経て三木市で建設行政を担当し、現在は人事交流で県に出向している。建設関係の仕事に関わって通算20年ほどになるが、似たような工事でも条件や風土などが異なり、同じ現場は無いのが、難しく面白く感じている。旅先でも道路や橋を見ると工法に興味や疑問を持つなど、ものづくりに対する興味は尽きない。

兵庫県東播磨県民局加古川土木事務所
東播磨南北道路対策室南北道整備課主任

小寺 慶一氏

東播磨道の整備において、われわれ行政は、事業の計画設計から用地買収、施工にいたるまで一貫して携わっている。東播磨道北工区の加古川市域の多くが高架橋。コンクリート橋脚の工事を担当したが、工程上、コンクリート打設が夏場となっていました。気温が高い夏

品質高めて耐久性強く

北工区が未開通のため、現状は暫定的に終点となっている八幡稲美ランプ付近で渋滞が起り、多くの大型車が道路幅の狭い市道を通っている。早期供用を果たして、地域住民の騒音や安全面での不安を解消したい。

現場は、コンクリートにひび割れが発生しやすく、厳しい品質管理が求められる。コンクリートの品質向上を自身のテーマとしてかかっている。コンクリート内にガラス繊維のネットを入れて、材料面でもひび割れ抑制策を施した。インフラは整備にとどまらず、維持管理が重要。少しでも品質の高い構造物を造り、長持ちさせるよう努めている。

株式会社田村組

稲岡 秀真氏

県立農業高校農業環境工学科を卒業後に入社して2年目の19歳。高校3年のとき田村組に会社見学に来て、2学年上の先輩から地図に残るやりがいのある仕事だ

地図に残る仕事に興味

入社後は半年間の見習期間を経て、まず河川工事を経験、その後今回の道路工事に関わっている。ここでは工事測量や写真管理など、施工管理全般の補助を担当。今は社内でも最年少なので覚えることが多く、できることが増えてくると仕事が楽しく思える。次に入社して新入社員に仕事をしっかりと教えられるよう成長したい。

株式会社田村組

三軒谷 和也氏

小野市内の現場で作業所長を務め、盛土や盛土部に道路を通すためのボックスカルバート設置工事などを担当している。小野市に本社を置く会社として、地域住民が待ち望む道路建設に関わることができ光栄に思う。

ICT施工を積極的に

盛土部分の大半がICT施工で効率的に進められる。ICT施工では重機操作だけでなくパソコンでの作業も必要であり、若手社員も興味を持って取り組んでくれている。仕事の効率化だけでなく若手の人材育成面からも積極的に取り組むべきだと感じるので、引き続き活用していきたい。

前川建設株式会社

柿坪 聖磨氏

県立東播磨工業高校土木科を卒業後に入社して4年目。今回は加古川市内で高架部の橋脚3基の工事に携わり、工事測量や写真管理などを担当した。東播磨道の橋脚は景観に配慮したイチョウ葉型で設計されている。張り出し部が曲線形になっているため、位置を決める測

経験積み技術力高める

量作業には神経を使った。また橋脚は地中から地上まで高さ10mを超える大型の鉄筋コンクリート構造物なので、風に揺れる長い鉄筋を精度良く組み立てる工程も難しかった。前川建設では若手社員の能力向上を目指し、現場で出た課題を次に生かすための記録冊子を作っている。読むと勉強になる。入社したころは週1日しか休めないこともあったが、最近は働き方改革の推進により一般的な公共工事では週休2日が確保される現場もあり、労働環境も良くなっている。経験を積みながら技術力を高め、会社や地域の発展に貢献できるように頑張りたい。

前川建設株式会社

柿坪 聖磨氏

景観に配慮したイチョウ葉型の橋脚。曲線形の張り出し部分の測量作業に神経を使ったと柿坪さん(加古川市内)

経験積み技術力高める

量作業には神経を使った。また橋脚は地中から地上まで高さ10mを超える大型の鉄筋コンクリート構造物なので、風に揺れる長い鉄筋を精度良く組み立てる工程も難しかった。前川建設では若手社員の能力向上を目指し、現場で出た課題を次に生かすための記録冊子を作っている。読むと勉強になる。入社したころは週1日しか休めないこともあったが、最近は働き方改革の推進により一般的な公共工事では週休2日が確保される現場もあり、労働環境も良くなっている。経験を積みながら技術力を高め、会社や地域の発展に貢献できるように頑張りたい。